

No	作品名	作者・産地	品質	時代	法量(cm)	コレクション名	管理番号
17	祥瑞山水詩入盃	景德鎮窯	磁器	明時代 17世紀	高5.4 径6.4	松永コレクション	6-Ha-113
18	粉吹徳利		陶器	朝鮮王朝時代 15~16世紀	高15.9 胎径11.4	松永コレクション	6-Ha-112
19	馬上盃	唐津焼	陶器	桃山時代 16~17世紀	高6.0 口径6.0	田中丸コレクション (寄託)	97
20	備前鶴首徳利	備前焼	陶器	桃山時代 16世紀	高21.1 胎径11.2	松永コレクション	6-Ha-111
21	皮鯨ぐい呑	唐津焼 小森谷窯	陶器	桃山時代 16~17世紀	高さ5.7 口径7.5	田中丸コレクション (寄託)	96
22	絵唐津徳利	唐津焼 道園窯	陶器	桃山時代 16~17世紀	高さ20.1 胎径11.8	田中丸コレクション (寄託)	79
23	絵唐津草文ぐい呑	唐津焼	陶器	桃山時代 16~17世紀	高さ5.7 口径7.5	田中丸コレクション (寄託)	112
24	斑釉徳利	高取焼 内ヶ磯窯	陶器	江戸時代 17世紀	高16.5 胎径8.9	一般古美術資料	14-Ha-145
25	斑唐津片口ぐい呑	唐津焼	陶器	桃山時代 16~17世紀	高さ5.8 口径8.4	田中丸コレクション (寄託)	100

次回展示予告

【古美術企画展示室】

◆夏休みこども美術館2023

うつくsea！ すばらsea！

6月27日(火)~9月10日(日)

今年の夏休みこども美術館のテーマは海！皆さんは海の作品と聞いて、どんな作品を想像しますか？海の景色や、海の生き物をモチーフにした作品だけではなく、いろいろなうつくしい、すばらしい海の作品を紹介します。

◆企画展

朝鮮王朝の絵画—山水・人物・花鳥—

9月13日(水)~10月22日(日)

朝鮮王朝は1392年に創建され500年以上続いた長命な王朝です。本展では、当館が収集してきた朝鮮時代の絵画に加えて、近年新たに見出された優れた作品をご紹介します。日本や中国とは異なる個性を持った朝鮮時代の絵画の魅力に迫ります。

【松永記念館室】

◆秋の名品展

8月22日(火)~10月29日(日)

企画展「朝鮮王朝の絵画—山水・人物・花鳥—」にあわせて、朝鮮王朝と近い時代の日本絵画と中国絵画を精選してご紹介します。

◆海を越えた交流—墨蹟を中心に

10月31日(火)~2024年1月14日(日)

古来、多くの禅僧が海を越えて日本と中国を往来しました。彼らの書跡は墨蹟と呼ばれ、特茶の湯の世界で珍重されました。墨蹟を中心に、日中の交流を物語る文物をご紹介します。

かいせき 懐石のうつわ むこうづけ 一方向付・鉢・酒器

会期 2023年6月13日(火)~8月20日(日)

会場 松永記念館室



No.3 上野割山椒形向付



No.10 黄瀬戸縁鉢



No.18 粉吹徳利

「懐石」とは、茶事で出される食事のことです。これは「会席」の当て字で、一説に、修行中の禅僧が空腹を紛らわすために温めた石を懷に入れたことになぞらえ、飢えをしのぐ程度の質素な食事という意味を始めたものといわれています。懐石に用意される料理の数や種類は時代によって変化してきましたが、現在では、飯・汁・向付のセットに始まり、煮物、焼物、吸物、八寸、強肴、香物というコースを基本とし、酒も出されます。

それらを供するための器一式を「懐石道具」と総称します。色と意匠を同じくする漆器を基調としながら、向付、焼物・煮物等を盛る鉢、徳利や盃などには様々な陶磁器が用いられるようになりました。

本展はこのように懐石に用いられる陶磁器に焦点をあて、松永コレクションを中心、25件を展観するものです。

[学芸員 後藤 恒]

懷石道具のうち、元来禅宗寺院で用いられる漆塗の器物にならった膳、飯椀、汁椀、楪子（高台つきの盤）、飯器（飯を入れる櫃）、湯斗（湯を入れ、注ぐための器）等で構成される一揃いを「懷石家具（または皆具）」と称します。やがて楪子が向付に変わり、焼物（魚や鶏肉を焼いた物）・強肴（進肴とも。酒を進めるための肴）・香物（糠などに漬けた野菜）等、客人が自身で取り分ける料理を出すための鉢類も加わり、現在の形式が整えられてきました。

むこうづけ 向付 (出品1~9)

懷石家具が色も意匠も同じ物で統一されるのに対し、向付、焼物、強肴、香物、預け徳利・席盃には陶磁器を主として席主の趣向を反映した変化に富む器が用いられ、料理を賞味する悦びとともに、器を鑑賞する楽しみも客人に提供します。

その筆頭が、懷石の最初に出される向付です。通常、盆の上に飯椀・汁椀とともに載せて出される小鉢または小皿で、客人から見て向こう正面に置かれることからこの呼称があります。かつては「なます」、今では魚介類の刺身を盛ることが多く、それを食し終えた後も客人の手元に留まり、その後に出される料理の取り皿としても用いられます。季節によって好まれる器形も異なるのは茶碗と同様で、一般的には、暑い時期には見込みの浅いもの（平たい形のもの）、寒い時期には筒形などの見込みの深いものや蓋付きのものが好まれます。

松永耳庵旧蔵になる《上野割山椒形向付》（出品3）は、仰木政斎著『雲中庵茶会記』*所載の松永の茶会記録に多く登場することから、松永が自身の茶事の懷石において殊に愛用したことが分かるとともに、実際の使用例として「キスノ昆布〆」（1938年4月29日条）、「キス糸作り甘酢」（1942年11月15日条）、「カソパチ細切りわさび」（1943年11月3日条）、「胡瓜に海老の酢あえ」（1949年7月16日条）、「赤貝、嫁菜の膾もの」（1956年4月8日条）、「イナダ甘酢」（1957年4月14日条）、「平目糸作甘酢」（1957年10月16日条）を盛ったことが確認されています。

*『雲中庵茶会記』：福岡県中間市出身の木工芸家・仰木政斎（1879~1959）が1930年から1958年までに自ら開いた茶事や、招かれた他の数寄者の茶事の記録をまとめたもの。とくに松永耳庵の茶事の記録が充実しています。原書は所在不明ですが、1997年に

発行された味岡敏雄編集の影印本（非売品）によってその全内容を知ることができます。また福岡市美術館では本書の翻刻に取り組み、「『雲中庵茶会記』翻刻稿」と題して隨時当館の研究紀要に掲載しています（当館公式ホームページにて閲覧、ダウンロード可能）。

はち鉢 (出品10~15)

懷石において、客人が自身で取り分ける料理を出す際には、鉢類が用いられます。先述の通り、焼物、強肴、香物等が該当します。これも鑑賞の対象となるため、席主の趣向を反映した種々の陶磁器が用いられます。

松永耳庵が茶の湯を始める前から入手し、生涯愛藏した器が、《織部角切透鉢》（出品12）です。本品は、戦前の松永が美術愛好の趣味において親しく交遊していた北大路魯山人（1883~1959）の助言を受けて購入したもので、茶の湯を始めてからは自身の茶事の懷石において焼物または強肴を盛る器として頻繁に用いたことが『雲中庵茶会記』の記録から判明しています。具体的には「進肴 壱岐の雲丹」（1941年11月9日条）、「焼物 甘鯛」（1946年11月30日条）、「鯛の塩焼」（1954年2月14日条）、「アジの塩焼」（1955年5月29日条）、「鮎塩焼」（1957年7月21日条）、「焼物 アイナタ」（1958年4月6日条）を盛った使用例が確認できます。

《黄瀬戸縁鉢》（出品10）は同書において「香の物 胡瓜小簾」（1941年10月16日条）、「香の物 沢庵」（1942年11月15日条）、「香物 白菜」（1946年2月16日条）とあって、主に香物に使用されたことが伺えます。

しゅき器 (出品16~25)

懷石で酒を出す際に用いる器（酒器）には、燭鍋と呼ばれる鉄製の酒つぎと漆塗の引盃及び盃台のセットと、席主が席中に預けて客人同士でゆっくりと酒を楽しんでもらうために用いる「預け徳利」とそれに伴う盃（「席盃」と呼ぶ）のセットがあります。

本展では後者に着目します。預け徳利と盃は席をはずす席主の代役にもなるため、席主自慢の器が用いられます。今回は、当館所蔵の松永コレクションに含まれる酒器（出品17・18・20）に、当館へ寄託されている田中丸コレクション*等からも出陳し、徳利と

盃を各5件、取り合わせて展示いたします。

*田中丸コレクション：福岡玉屋の経営者・田中丸善八（1894~1973）により蒐集された九州古陶磁を中心とするコレクションで、陶器203件が福岡市美術館に寄託されています。その中で最も大きな割合を

占めるのが唐津焼で、酒器も充実しています。ちなみに田中丸は松永と共に神屋宗湛を偲ぶ茶会「宗湛会」を再興するなど親交があり、松永が来福した折には決まって自邸（福岡市中央区平尾に現存する「松風園」）に招き、もてなしたことが知られています。

出品作品リスト

No	作品名	作者・産地	品質	時代	法量(cm)	コレクション名	管理番号
1	志野四方向付 四客	美濃焼 (志野焼)	陶器	桃山時代 16~17世紀	高5.0 幅8.8(各)	松永コレクション	6-Ha-108
2	志野檜垣文擂座四方向付	美濃焼 (志野焼)	陶器	桃山時代 16~17世紀	高さ8.9 口径9.8×9.8	2018年度 石田敦子氏寄贈	14-Ha-209
3	上野割山椒形向付 六客	上野焼 釜ノ口窯	陶器	桃山時代 16~17世紀	高7.6 径11.0(各)	松永コレクション	6-Ha-110
4	掛けわけじびぶみなりあしきむこうづけ	高取焼 内ヶ磯窯	陶器	江戸時代 17世紀	高4.2 幅19.1(各)	一般古美術資料	14-Ha-141
5	織部筒形向付 五客	美濃焼 (織部焼)	陶器	桃山時代 16~17世紀	高10.7 径8.7(各)	松永コレクション	6-Ha-107
6	絵唐津草花文筒形向付 五客	唐津焼 高麗谷古窯	陶器	桃山時代 16~17世紀	高9.0 口径5.2(各)	田中丸コレクション (寄託)	47
7	絵唐津草花文筒形向付	唐津焼 高麗谷古窯	陶器	桃山時代 16~17世紀	高10.5 口径5.3	一般古美術資料	14-Ha-108
8	色絵藤紅葉文向付 五客	現川焼	陶器	江戸時代 17~18世紀	高5.3 口径11.8(各)	森山コレクション	11-Ha-4
9	色絵菊図向付 五客	尾形乾山 (1663~1743)	陶器	江戸時代 17~18世紀	高4.8 幅17.8(各)	松永コレクション	6-Ha-109
10	黄瀬戸縁鉢	美濃焼	陶器	桃山時代 16世紀	高5.3 口径16.3	松永コレクション	6-Ha-44
11	志野あやめ絵鉢	美濃焼 (志野焼)	陶器	桃山時代 16~17世紀	高8.3 最大径26.1	松永コレクション	6-Ha-46
12	織部角切透鉢	美濃焼 (織部焼)	陶器	桃山時代 16~17世紀	高10.2 口径22.7×21.5	松永コレクション	6-Ha-48
13	黄釉荷葉形手付鉢	高取焼 白旗山窯	陶器	江戸時代 17世紀	高12.6 長23.0	一般古美術資料	14-Ha-98
14	呉州赤絵玉取獅子鉢	漳州窯	磁器	明時代 17世紀	高9.4 口径20.4	松永コレクション	6-Ha-144
15	色絵琴高仙人赤玉文鉢	有田焼	磁器	江戸時代 17~18世紀	高8.8 口径22.8	森山コレクション	11-Ha-6
16	青花祥瑞文瓶	景德鎮窯	磁器	明時代 17世紀	高19.8 胴径10.1	森山コレクション	11-Ha-8

・都合により展示作品を変更することがあります。